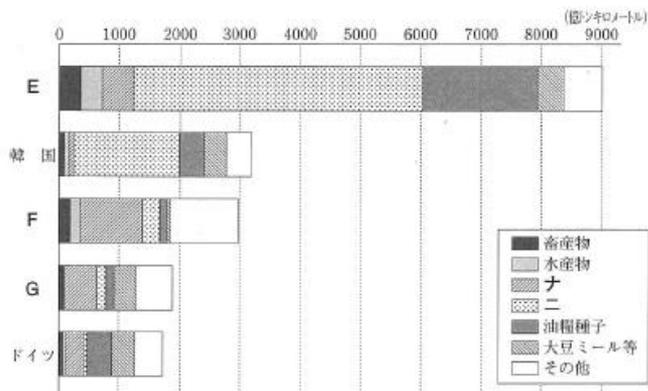


地理 B

第2問 問4

ステップを踏んで考える資料読解問題は、得点率に大きな差がついた!

問4 マツコさんたちは、イギリスと、アメリカ合衆国や日本の食料供給について調べることにした。次の図4は、食料の安定供給や安全性の確保、食料輸入が地球環境に与える負荷などをみることができるフードマイレージ（食料輸入量×輸送距離）を示したものであり、E～Gは、アメリカ合衆国、イギリス、日本のいずれかである。また、図4中の凡例ナとニは、穀物または野菜・果実のいずれかである。イギリスと野菜・果実との正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 11



「その他」には、砂糖類、コーヒー、茶、ココア、飲料などが含まれる。
統計年次は2001年。
農林水産省農林水産政策研究所資料により作成。

図 4

	①	②	③	④	⑤	⑥
イギリス	E	E	F	F	G	G
野菜・果実	ナ	ニ	ナ	ニ	ナ	ニ

第2問 問4

正解率	38.6%
SS65~70	58.0%
SS60~65	52.1%
SS55~60	47.2%
SS50~55	42.0%
SS45~50	35.8%
~SS45	24.6%

2021年度第3回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試
「地理B」

受験者数: 87,139人
平均点: 51.2点
標準偏差: 14.8

地理B

第2問 問4

ステップを踏んで考える資料読解問題は、得点率に大きな差があった！

結果分析

共通テストの資料読解問題で特徴的であったのは、「複数の資料を組み合わせで判断する」出題と、この設問のように「資料の凡例などの指標と、国名を組み合わせで判断する」出題です。センター試験で頻出した、資料中の国名や品目名をストレートに問う形式はほとんど出題されなくなりました。

本問では、①韓国から凡例ニを小麦・トウモロコシなどの穀物（よって、ナが野菜・果実）と判断する→②韓国と同様に穀物が中心で、圧倒的に合計数値が大きいEが、食料自給率が低く、食料をアメリカ合衆国やカナダ、オーストラリアなど距離の離れた国から輸入している日本と判断する→③FとGではナの野菜・果実とその他（嗜好品・飲料）が多く、大豆ミール等が少ないFをアメリカ合衆国と判断するというステップを踏みますが、①→②のステップよりも、③のFとGの判断に迷ったことが誤答の選択率からうかがえました。Fのみ大豆ミール等をほとんど輸入していないことに着目できたでしょうか。

指導のご提案

教科書を一通り終了し、問題演習を通して知識の定着・確認や、新しい設問形式への慣れを進められている時期だと思えます。新しい設問形式への対策に例年よりも時間がかかり、基礎知識の定着にかける時間が十分に取れていないということも伺っています。問題演習の解説では「解き方・考え方」が中心となるかと思えますが、誤った問題は、考えるもとになる基礎知識が曖昧になっていないかを、教科書・資料集に立ち戻って確認するようご指導されることをお勧めします。

また、共通テストでは、細かい知識ではなく、世界を大観して傾向をとらえることが重視されています。自然環境と関連させて、産業や人口などの系統的な内容を確認すると、断片的な知識がつながって理解しやすいようです。